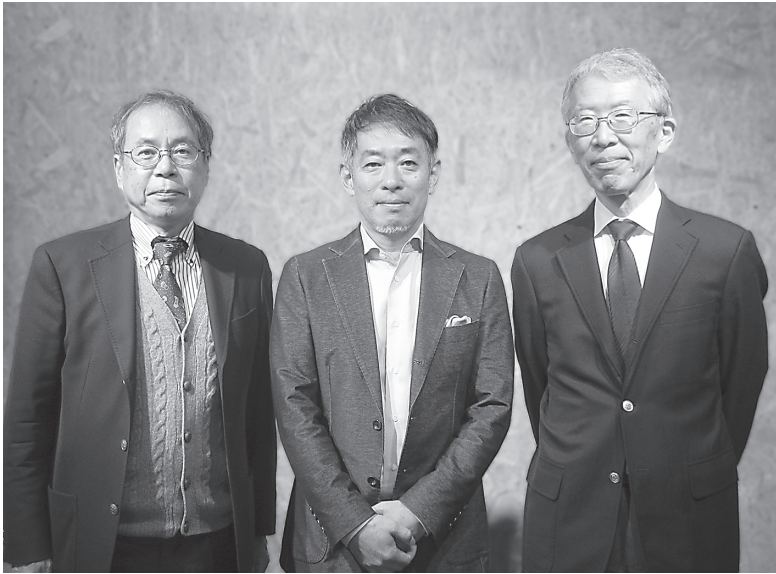


国内最高水準の革靴づくりを看板に
新しい市場を開拓していきます。



左から稲次氏、高橋氏、吉村氏

東都製靴工業協同組合 理事長

高橋吉行氏

NPO法人日本皮革技術協会 理事長

吉村圭司氏

NPO法人日本皮革技術協会 副理事長

稲次俊敬氏

吉村 日本を代表する靴産地は、東の浅草、西の神戸・長田と二つあります。ご存じのように、長田はケミカル靴が発祥でした。これに対し、浅草は昔から革靴に特化しており、台東区を中心に足立区・荒川区などの多くの革靴メーカーが東都製靴工業協同組合（東

都組合）に加盟しています。今回の座談会は理事長の高橋吉行様をゲストにお迎えして、いろいろと聞いてまいりたいと思います。

靴メーカーはピーク時の1/4に減ったが

吉村 東都組合様は、戦後まもなく組織されたのですね。

高橋 そうです。設立は昭和22年で初代理事長が小川啓三氏です。昭和30年代に量産化の波が来て、そこから右肩上がり発展していき、浅草が「靴の街」として全国に名を馳せるまでに成長してきました。

吉村 なぜ、浅草が革靴の産地として発展してきたのでしょうか。



高橋氏

高橋 もともと浅草は昔から皮革

の集積地でした。私自身も聞いた話ですが、革屋さんは甲革用だけでなく、中底、本底の革も一緒に売り歩いていました。それを材料に、間口一軒ほどの店があちこちで手製の注文靴を作っていたようです。戦後、手製の注文靴が機械靴に変わって、ほとんど靴メーカーが増えています。東浅草から山谷まで軒並み靴関係の会社が連なっていた時代があったと言われています。

東都組合の規模的なピークは昭和56年ごろで368社もありました。しかし、現在の組合員は84社と1/4にまで減っています。おおよっぱに分けて3割が紳士靴、

7割が婦人靴といったところですが、

吉村 メーカーはそんなに減っているのですか。

高橋 少し古い話になりますが、昭和60年ごろまで自社ブランド（PB）を擁して個展や合同展を開いているメーカーは少なくなかったのです。ブーツブームなどで市場が急拡大したころから靴問屋が力を付けてきて、メーカーは問屋の下請けとなって自社で商品企画をやらなくなり、いまで言うOEM（相手先ブランドでの生産）中心の生産形態に代わっていきました。そのほうが在庫リスクも少なく、注文もまとまるからです。

吉村 ある意味、自然な流れとも言えますが。

高橋 靴メーカーもそれで潤いました。しかし、バブルがはじけて、大手の婦人靴問屋が倒産。その結果、OEM受注が急速にしぼんでいきました。その後のカジュアル化の流れも、革靴中心の浅草にはダメージが非常に大きかった。

稲次 靴メーカーは大きく方向転

換をしないとイケませんね。

高橋 われわれは作ることに強かったが、これからはインターネットなどで販売していかないとイケません。生き残りを賭けてプライベートブランド（PB。自社ブランド）を立ち上げて頑張っているところでは、最近調べたところ、84社の組合員のうち、PBを持つているところは30社ほどあります。でも、まだOEMが100%のところも、PBを作ったからと

もつとも、PBを作ったからと言って、それがすぐに主力になるとは考えにくく、OEMとのPBの両輪でバランスを取りながら、生産していくのが良いのでは、と思っています。

稲次 東都組合さんがそこをサポートしているのですね。

高橋 組合は全日本革靴工業協同組合連合会（全靴協連）全国の革靴団体が加盟）と協力して、HPやSNSにアップする靴写真の撮り方まで、さらにはブランディングセミナーなど勉強会でサポートしているところですが、PB商品

をしています。

HPを作つてすぐに売れるわけでもないですが、その中でも着実に成果を上げている会社がいくつかあります。競争に勝つていけるよう各社は得意な分野に磨きを掛け、同時に新分野にも挑戦していかないとイケません。

吉村 革靴メーカーにとって、自由化対策も大きな課題になっていきますね。

高橋 数年前から、革靴と革の自由化が始まっています。現在は2国間の約束で10年かけて10%ずつ関税が減っていくことになっていて、まだ完全自由化にはなっていない。

革靴に限って言えば、国内の流通量の90%が海外製。国産は10%のシェアで年間300万足から400万足ほどです。

靴小売とのコラボで差別化に貢献したい

稲次 コロナの影響も大きいでしょうね。

高橋 東都組合を中心とした、東



吉村氏

京の産地で作っているのは、婦人靴と言うとパンプス、紳士靴だとビジネスシューズです。最近はおジューアル化やコロナの影響で消費者のマインドが変化して、今までパンプスが当たり前と思っていた職場でもスニーカーでOKだし、男性もネクタイ無しが普通になっています。

コロナから3年経ち、売上高はコロナ前の100%に戻ったという取引先もあります。しかし、東京の革靴メーカーへの注文は、まだ以前の70%ぐらい。また、コロナ禍で廃業した職人さん、材料屋さん、メーカーさんもあります。去年、コロナが5類に移行して、環境も回復しつつありますが、一度辞めた方が元の会社に戻ることは

はなかなかない。だから注文はあっても、増産できないというジレンマがあります。

稲次 職人さんの高齢化の問題は、いまも続いていますか。

高橋 職人さんの平均年齢は80歳に近いようで、後継者も少ない感じがします。東京の靴メーカーは分業制で、これまで工賃仕事の職人さんを活用して作ってきました。月給制ではないので、資金繰りはその分、楽でした。いまは職人さんが少なくなつたので、メーカーは社員を使って生産していかないといけません。

稲次 人材の確保についてはどうですか。

高橋 どこも社員は潤沢とは言えないでしょう。東都組合では全靴協連と一緒に毎年、企業ガイダンスを実施して若い人たちを80人くらい集めてきました。それがコロナで中止に。今年からまた企業がガイダンスを復活させます。

吉村 いま、女性や若手の登用が言われていますか。

高橋 東都組合の組織は若返りが進んでいます。いま私は17代目の理事長を務めさせていたのですが、藤原仁さん（現日本皮革産業連合会会長）が15代目の理事長になった時に、理事の平均年齢が一気に20歳ほど若くなりました。理事は11人いますが、2年前から若い女性2人も理事になっています。この方たちは青年部でこれまですごく頑張ってきた人たちです。

吉村 若い方たちの考え方はどうですか。

高橋 私はいま61歳で、メーカーがOEMで食べてきた世代なのです。しかし、いまの若い人たちはOEMでそんなにいい思いをしてきていない。若い人たちは想像力が豊かで切り替えも早い。インターネットなどを駆使して、自分たちのブランドを売ることに一生懸命に取り組んでいます。

東都組合は、組合所有の東都靴会館を昨年改装しました。3階に革靴スタジオを作りました。ここでインターネット用に商品写真や、モデルを使った写真も撮れる

ようにしました。見栄えの良いHP作りに貢献しています。

吉村 新たな市場開拓と小売店のコラボも視野に入っているのでしょうかね。

高橋 はい、もちろん。小売店さんに聞いていただきたいのはメーカーとのコラボです。東京・浅草はメーカーの近くにパーツメーカーがある。中底や本底の加工とか、ミシンをかける製甲も全て近くであり、目が行き届いた靴づくりが浅草の特色です。ちよつと値段が高くなるかも知れないですが、リピーターを作れる上質な靴です。それを小ロットでご提供します。自分のお店で売ってみたい靴があれば遠慮なく、メーカーでも東都組合でもお問い合わせてください。ご要望に少しでも貢献できればいいかと思えます。決して中抜きしたいと考えているわけではありません。

吉村 東都組合さんのHPで各社PBブランドも見られるんですね。

高橋 全部見ることができません。靴メーカーにもリンクしています。



稲次氏

す。ですから、試しに何足か置いてみたいとか、1週間サンプルを借りて受注会をやりたいといったことも、受けてくれるメーカーさんもあるでしょう。タイアップはお店にとつてもいいのではないかと思います。

稲次 組合さんの展示会はどこで見られますか。

高橋 年に2回、東京レザーフエアで、「Nippon Value」という名前前で合同ブースを出しています。ここは強い個性やこだわりと靴づくりへの情熱を持ったメーカーが集います。また3月半ば頃、渋谷・恵比寿で「ジャパンシューメーカーズ」という名前の個展を全

靴協連の主催で開催します。

浅草の活気を活用し、靴の地域ブランドを育てたい

吉村 いま、浅草がものすごく賑わっています。雷門の周辺はインバウンドの人たちでいっぱい。この集客力を靴のほうでも生かしたいですね。

高橋 浅草のブランディングは当組合だけでなく、各団体が声を大にして「靴の街・革の街浅草」にしていこうと言っています。鯖江の眼鏡、今治のタオルのように地域ブランドにしたい。多少値段が高くても選ばれるブランドに。

吉村 産地は雷門から遠くない。靴メーカーさんが出ていかないといけないでしょう。実物を見られないと始まらないと思います。

高橋 皮産連のHPで靴のショップを紹介していますね。クラフトバンクさんなど花川戸に何軒かある。全靴協連がやっている「i/288」とか「トーキョーフットテラー」というカスタマイズに対応するアンテナショップが浅草

にもほしい。

靴だけじゃなく、バッグや革製品があり、洒落たレストランとか喫茶店など浅草の名品・名店が集まる通りができれば、あそこに行つて一日遊ぼうつてことになると思うのです。

消費者と業者が奥浅草で革と靴に触れ合う地域イベントの「エラウンド」は、NHKが取り上げるぐらいの知名度になっています。参加メーカーはオープンファクトリーで靴作りの技術を見せたりしていますね。

台東区や皮産連(ひさんれん)(日本皮革産業連合会)さんとかが連携すれば、世界的に高い知名度を活かしていると思います。

稲次 浅草の新しい名所づくりですね。

高橋 まずアクションを起こしたい。靴が売れる、売れないというのは二の次で、PRが必要ですよ。

稲次 「トーキョーフットテラー」には力が入っているようですね。

高橋 まだ丸の内のショップもオープンしたばかりですが、東都組



合のメンバーの確かな腕で作ったブランドショップです。価格はちよつと割高で4〜5万円。じっくり見て、良さを知っていたらこう思っています。

稲次 浅草にあれだけの大勢の人が来るのですから、その0・1%でも寄ってくれたらお金になる。値段に関係なくいいものを買っていく方たちはたくさんいます。高いからどうなのつて話じゃない、クオリティーの高いものを置いておかないとブランドになりません。

高橋 インバウンドのお客さんも

たくさん来てほしいです。

稲次 彼らはSNSで発信してくれからです。

高橋 インバウンドの方は来日する前から色々調べています。現地でもPRするのいいと思います。

安心・安全の「日本エコレザー」で付加価値アップ

稲次 さて、ここで日本エコレザーのご案内です。インバウンドの方が日本で求めているのは安心・安全な商品です。日本の革靴にそういう付加価値を付けてやれば、喜ばれると思いますかどうですか。

いま名古屋で、日本エコレザーを使った鞆づくりで活躍している専門店があります。ここでは、私も、日本皮革技術協会が製作した英語版のパンフレットも置いていて、購入客はSNSで情報を発信している。客が客を呼ぶってことをオーナーは実感されています。

高橋 日本エコレザーを使う場合、革問屋さんには何と言えいいのですか。

稲次 もし、扱いたい革が日本エコレザーの認定革でなかったら、問屋さんを通して国内のタンナーに作ってくれ、認定を取ってくれと依頼すれば入手できます。これまでの認定革・革製品のリストは当協会のホームページで全部見られます。

高橋 革問屋さんをお願いした場合、その費用はどうなりますか。

稲次 検査費用が掛かりますが、申請費用は不要です。

高橋 日本エコレザーのロゴの使用料金は。

稲次 無料です。

高橋 これは是非当社（高進製靴）で使っていきたい。いまインターネットで売っている靴にはTLA（シンキングレザーアクション。皮産連が製作・配布中）の冊子を付けて送っています。あれはいいです。

稲次 これは消費者向けのパンフです（写真下）。これを靴箱に入れたらいいのでは。環境に優しい

革を使っています、と押し付けるのではなくさりげなく訴える。

高橋 エコとかを売り文句にするよりスマートかも。

吉村 変にやると、グリーンウォッシュ（上辺だけ環境配慮をしているようにみせかけ、実態が伴っていない企業の環境活動）と思われかねない。さり気なく、知らせるのがいいのでは。



日本エコレザーのパンフレット

稲次 そうすれば、ああ、この会社はエコを前面に出さなくても、環境に配慮をしているんだな、と信頼性と満足感が増します。

高橋 例えば、姫路の高木や松原のタンナーの革で、申請・検査はしていないけれど、日本エコレザー基準に合格するレベルのものが多いのですか。

稲次 多いのではないのでしょうか。この制度の導入前に市販革を調べたら、任意に抽出した革のうち、6割ほどは基準値をクリアしていました。

高橋 とところで認定数があまり増えていかないのは、失礼だけど、タンナーさんは認定を取ってもあまり効果ないからですかね。

吉村 消費者レベルでまだロゴマークが浸透してないこともありま。まだ、我々のPRが不足しています。

高橋 タンナーだけじゃなく、製造業者も小売業者も一緒になってこれを育ててこうって気持ちで消

東都製靴工業組合協同組合

発 足：1947年（昭和22年）

所在地：〒111-0025 東京都台東区東浅草2-17-4

理事長：高橋 吉行

組合員：84社

TEL03-3876-3391 FAX03-3876-3396

http : www.tokyo-shoemakers.jp



東都靴会館



費者に訴えていかないとね。栃木レザーの革を使っています、仏アノネイの革を使っています、というように、「日本エコレザーを使っています」と当たり前のように表示されるといいですね。

吉村 そうですね、認定革は排水問題、廃棄物の処理もしっかりした会社しか取れないのです。世界中でそれが求められているのでLWG（レザーワーキンググループ）が始まった。しかし、日本エコレザーは、以前から当たり前にやってきているのです。

高橋 最近、表面にフィルムを貼って、裏地が革というのを「エコレザー」と言っているところがあります。あれは？

稲次 フィルムの厚さが0・15mm以内なら革と認定されます。それが本当の日本エコレザーかどうかは、調べてみないと分かりません。

吉村 それは、最近多いビーガンレザーとか、ア

ップルレザーなどと同じで、トレンドに便乗しているのかも。

高橋 革を粉碎してシート状にしたものはどうですか。

吉村 天然皮革特有の断面繊維構造をしていないので、これは革とは言えません。

高橋 それでは、再生革は革ではないのですか。

稲次 「リサイクルレザー」とか呼ばれることもあります、それ

は誤りで革ではありません。リサイクルと言っても合成樹脂に革屑を練り込んで作られた、いわゆる石油製品ですから、脱石油（脱化石燃料）の観点からすると環境に優しいわけじゃないのです。アップルレザーなども同じです。耳当たりのいい言葉でアピールしているだけです。

高橋 そうですか、今日はいろいろと勉強になりました。

吉村、稲次 ありがとうございます。

日本エコレザーの6条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質を検査している
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値を満たしている
- ⑤適切に管理された工場で作られている
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上

日本エコレザーのロゴが変わります

従来のロゴ

新ロゴ



Japan Eco Leather

(従来のロゴも当分の間、併用してご使用いただけます)

「日本エコレザー座談会・対談」 「認定革・製品リスト」 は www.japan-ecoleather.jp の項でご覧いただけます